

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20401022

研究課題名（和文）漢文典籍の国際交流に関する実証的研究

研究課題名（英文）A positive research for the international exchanges of Chinese texts

研究代表者

石塚 晴通（ISHIZUKA HARUMICHI）

北海道大学・名誉教授

研究者番号：10002289

研究成果の概要（和文）：

日本から海外に移行した漢文典籍として最大規模である楊守敬コレクションの全貌を伝える『隣蘇園蔵書目録』の全巻影印・録文の刊行を実現せしめ（中国 2009 年度優秀古籍図書奨賞）、世界の学界に基本的工具書を提供した。又、同書に基く調査成果をデータベース化した。又、『湖北省博物館蔵日本卷子本経籍目録』改訂版を刊行せしめ、内外に配布した。

広く漢文典籍の国際交流的視点から敦煌本と正倉院本との比較調査を行い、3 回の国際ワークショップを開いた。

研究成果の概要（英文）：

It has been realized to publish “隣蘇園蔵書目録（The catalogue of Yang Shou-jing’s bibliothecas）” which was the biggest collection of Chinese texts of old Japanese properties. This book was awarded the Chinese prize for the excellent publication of Chinese classical text in 2009. According to this catalogue the database of the old collection and present status has been drawn up. And it has been realized to publish the second edition of “湖北省博物館蔵日本卷子経籍目録（The catalogue of the Japanese manuscripts owned by the Hubei Museum in China）”.

Comparative researches for Dunhuang manuscripts and Shosoin manuscripts from the point of international exchanges were in operation. And 3 international workshops have been held from this point of view.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2009 年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010 年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
年度			
年度			
総計	12,600,000	3,780,000	16,380,000

研究分野：国語学・訓点語学・敦煌学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：漢文典籍、国際交流、楊守敬、隣蘇園蔵書目録、敦煌本、正倉院本

## 1. 研究開始当初の背景

日本が関与する漢文典籍の国際的交流に関しては、近時二松学舎大学21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」の一環として“ブックロード”を巡る国際シンポジウム「ブックロードと文化交流—日本漢文学の源流」（2006年9月、中国杭州）が開かれる等内外の研究上の関心が高まり、本研究課題の研究代表者（石塚晴通）も平成14～18年度科学研究費補助金基盤研究（S）「寺院経蔵の構成と伝承に関する実証的研究—高山寺の場合を例として—」を遂行する中で、典籍交流をテーマとする国際集会（「典籍の国際的交流・受容（訓読）」2002、「日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開」2004、「典籍交流（訓読）と漢字情報」2006）を主催し、内外の主要研究者と共に此の分野の研究を推進して来た。

また、平成16年度以来4年度に亘り「漢字字体規範データベース（略称HNG）」をWWW公開し、漢字文化圏に於けるそれぞれの時代・地域の典籍の標準の実態を把握する根本資料を提供して来ている。

本研究課題の研究代表者は、1960年代の後半以来長年日本の寺院経蔵等の原本調査や海外所蔵の敦煌文献・日本典籍の調査に従事して、広く典籍の国際的交流の研究に意を用いて来た。

近時、敦煌文献は複製本の盛行やIDP（国際敦煌プロジェクト）による全文画像のWWW提供が進み、また日本の正倉院聖語蔵聖教のCD-R・DVD刊行が進行して、漢文典籍の国際的交流を研究する便宜が整いつつあった。

## 2. 研究の目的

日本から海外に移行した漢文典籍として最大規模である楊守敬コレクションの全貌を、楊守敬手沢『隣蘇園蔵書目録』に基づいて調査し、同目録の記述・書込みとその後中国・台湾・日本等に分散している現蔵との関係を明らかにすることを目的とする。

併せて、漢文典籍の国際的交流の視点から、優れた典籍コレクションである敦煌経蔵と正倉院聖語蔵との構成と伝承について、それぞれのテキストとコレクションが形成されるダイナミズムを解明する手懸りを探ることを目的とする。

## 3. 研究の方法

上記の平成14～18年度科学研究費補助金基盤研究（S）の遂行の中で研究協力して刊行し得た『湖北省博物館蔵日本卷子本経籍文書』（上海辞書出版社、2006）に類するものを、他機関所蔵の楊守敬旧蔵本についても引き続き調査を進め刊行に協力して

行く。

また楊守敬コレクションの全貌を伝える楊守敬手沢『隣蘇園蔵書目録』10冊（中国湖北省博物館蔵）の調査を更に進めて、この目録自身の影印刊行に協力する。

また、この目録の記述や書込みとその後中国・台湾・日本等の博物館・図書館・個人等に分散して所蔵されている現蔵との関係を原本調査に基づいて実証的に明らかにして、その結果をデータベース化する。

大きく、優れた典籍コレクションの構成と伝承に関して典籍の国際的交流の視点から敦煌経蔵と正倉院聖語蔵とに関心を払い、華嚴経・四分律等の具体的典籍の調査を通して、それぞれのテキストとコレクションが形成されて行くダイナミズムを解明する手懸りを探る。

国内外の図書館等での原本調査、そのデータベース化と分析、研究成果の発表を以下の分担で実施した。

- ①楊守敬手沢『隣蘇園蔵書目録』書込みの調査（石塚・池田・唐）：中国湖北省博物館関係者との共同作業
- ②中国蔵楊守敬旧蔵本の調査（石塚・池田・唐）：中国国家図書館、個人蔵等の原本調査
- ③台湾蔵楊守敬旧蔵本の調査（石塚・池田・唐・徳永）：故宮博物院、中国国家図書館（台北）蔵の原本調査
- ④楊守敬手沢『隣蘇園蔵書目録』のデータベース化（池田・徳永）
- ⑤楊守敬旧蔵本調査結果のデータベース化（池田・徳永）
- ⑥敦煌経の調査（石塚・池田・赤尾）：スタインコレクション、ペリオコレクション、中国国家図書館コレクション等の原本調査
- ⑦正倉院聖語蔵聖教・高山寺聖教の原本調査（石塚・池田・赤尾・徳永）
- ⑧研究成果の発表（全員）

## 4. 研究成果

(1) 日本から海外に移行した漢文典籍として最大規模である楊守敬コレクションの全貌を解明して学界共有の基礎資料とすべく所蔵者湖北省博物館に全面協力して楊守敬手沢『隣蘇園蔵書目録』（上海辞書出版社、2009）を刊行せしめた（中国2009年度全国優秀古籍図書奨二等奨受賞）。

(2) 『隣蘇園蔵書目録』に基づいて、この目録の記述や書込みをデータベース化した。

(3) 楊守敬が生前最後まで手許に留めていた日本写本65点の解題目録を、原本所蔵者である中国湖北省博物館に全面協力して刊行した『湖北省博物館蔵日本卷子本経籍目録』（2006）に詳細な書誌解題を加えた改訂版の版下を提供して刊行を実現した。

(4) 大英図書館・フランス国立図書館・中国

国家図書館（台北）・上海図書館・高山寺・勸修寺・京都国立博物館・東洋文庫等において原本調査を実施し、外国人を含む関係者と研究打合せを行った。

(5) 漢文典籍のコレクションとして共に最大・最高の量・質である敦煌経と正倉院聖語蔵聖教とを、大きく典籍の国際的交流の視点からとらえ、具体的典籍の調査・比較を通して、それぞれのテキストとコレクションが形成されて行くダイナミズムを解明する手懸りを探るワークショップを欧米からの招待者を交えて3回京都国立博物館において実施した。

(6) 漢文典籍の国際交流と関連深い漢字字体規範データベースに関して、大英図書館 IDP の WWW で成果を公表した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

① IKEDA Shoju, Japanization in the Field of Classical Chinese Dictionaries, Journal of the Graduate School of Letters (Hokkaido University), 査読無, Vol.6, 2011, 15-25

② 斎木正直・池田証壽、漢字字体の変遷—HNGに見る変わる字体と変わらない字体—, 計量国語学, 査読有, 27(8), 2011, 317-328

③ 石塚晴通・唐焯、漢字字体規範数拠庫 (HNG) 的現状、専業図書情報機構の知識サービス創新、国家図書館出版社、査読有、2010、130-139

④ 石塚晴通・池田証壽・徳永良次、明治十八年高山寺「宝物寄附物古文書什物取調牒」(影印・翻刻)、高山寺典籍文書綜合調査団平成二十一年度研究報告論集、査読無、2010、pp. 63-129

⑤ 赤尾榮慶、「聖語蔵経巻管見—調査報告にかえて」、正倉院紀要、査読無、32、2010、pp. 96-102

⑥ TANG Wei, The use of Chinese words of colloquial origin in the Nihon Shoki, Journal of the Graduate School of Letters (Hokkaido University), 査読無, Vol. 5, 2010, pp. 65-80

⑦ ISHIZUKA Harumichi, Current status and future prospects of the HNG data-base, <http://idp.bl.uk>, 査読有, 2009

⑧ 石塚晴通、明治十八年高山寺「宝物寄附物古文書什物取調牒」、高山寺典籍文書綜合調査団平成二十一年度研究報告論集、査読無、2009、1-5

⑨ ISHIZUKA Harumichi, The data-base of normative glyphs of Hanzi, <http://idp.bl.uk>, 査読有, 2009

⑩ 池田証壽、日本古辭典의 연구 방법과 실제、『韓國文化』、査読有、44号、2008、

297-318

[学会発表] (計4件)

① Ishizuka Harumichi, Yellow Corrections Added to the Pelliot chinois Manuscripts from Dunhuang, International Dunhuang Project Symposium 2010 (招待講演), 2010年7月12日、京都・龍谷大学

② 石塚晴通、“Descriptive Catalogue of the Chinese Manuscripts with Reading Marks and Notes from Dunhuang” (『敦煌点本書目』) の英文術語、第102回訓点語学会研究発表会、2010年5月23日、京都・京都大学

③ 石塚晴通・小助川貞次、『敦煌点本書目』の構想、第101回訓点語学会研究発表会、2009年10月18日、東京・東京大学

④ 石塚晴通、漢字字体規範データベース (HNG) について、立命館白川静記念東洋文字文化賞記念講演会、2009年1月11日、京都・立命館大学

[図書] (計3件)

① 中国湖北省博物館(版下作成・石塚晴通)、『湖北省博物館蔵日本卷子本経籍目録』(改訂版、中国上海辞書出版社、2011、97

② 中国湖北省博物館(影印版下・録文版下制作・石塚晴通)、『隣蘇園蔵書目録』、中国上海辞書出版社、2009、580

③ 京都府教育委員会(主任調査員・石塚晴通)、『神護寺聖教目録』、京都府教育委員会、2009、575

[その他]

ホームページ等

<http://www.joao-roiz.jp/HNG>

<http://idp.bl.uk>

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

石塚 晴通 (ISHIZUKA HARUMICHI)

北海道大学・名誉教授

研究者番号: 10002289

(2) 研究分担者

池田 証壽 (IKEDA SHOJU)

北海道大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 20176093

唐 イ (TANG WEI)

北海道大学・大学院文学研究科・助教

研究者番号: 40455613

(3) 連携研究者

赤尾 榮慶 (AKAO EIKEI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部・副部長

研究者番号: 20175764

徳永 良次 (TOKUNAGA YOSHITSUGU)

北海学園大学・人文学部・教授  
研究者番号：50254694